Japan Foundation for
Regional Art-Activities

地域創造レター

News Letter to Arts Crew

11月号—No.378
2026.10.25
（毎月1回25日発行）



【岩紫（いわむらさき）】深みのある落ち着いた紫色。

日本画で用いられる顔料には、天然の鉱石を砕いた天然岩絵具と色ガラスを砕いてつくる人工の新岩絵具がある。岩紫は紫の新岩絵具で、天然の顔料と同じく砕いた粒子が大きいと濃く、細かいと薄い紫になる。ちなみに天然岩絵具の紫は紫雲末という名称で、原料はソーダライト。

●目次／*contents*

今月のニュース……2
令和7・8年度「公共ホール創造ネットワークモデル事業」終了報告

財団からのお知らせ……4
ステージラボ四日市セッション参加者募集・令和9年度ステージラボ開催地のお知らせ／2027・2028年度「公共ホール音楽活性化事業（導入プログラム）」登録アーティスト追加のお知らせ／2027・2028年度おんかつ登録アーティスト集合研修開催／令和8年度「公共ホール音楽活性化支援・市町村連携事業」終了報告／令和8年度「公共ホール音楽・現代ダンス活性化障がい者関連事業」スタート／「特別寄稿 ビューポイント viewpoint」No.25掲載について

今月の情報……7
地域通信／アーツセンター情報

今月のレポート……12
青森県八戸市　KAGURA DAY's @ hacchi
八戸圏域山伏神楽再興委員会「大演舞会」

発行元：一般財団法人地域創造
〒107-0052 東京都港区赤坂2-9-11
オリックス赤坂2丁目ビル 9F
Tel. 03-5573-4093　Fax. 03-5573-4060
URL: https://www.jafra.or.jp/

●令和7・8年度「公共ホール創造ネットワークモデル事業」

地元・長野ゆかりのアーティストの参加により実施

令和7・8年度
公共ホール創造ネットワークモデル事業



写真
1：小学校でのアウトリーチ（中川村立中川東小学校）
2：ダンスワークショップ（松川村）
3：音楽ワークショップ（小布施町）
4：アートシェア信州～ダンスと音楽がつなぐ道～『山脈狂詩曲（やまなみラプソディ）』（ホクト文化ホール）

●令和7・8年度「公共ホール創造ネットワークモデル事業」実施体制
［主催］長野県、一般財団法人長野県文化振興事業団、小布施町、松川村、中川村
［共催］一般財団法人地域創造
［アーティスト］横山彰乃（ダンサー・振付家）、外山賀野（チェロ）、海沼優衣（パーカッション・マリンバ）

●アートシェア信州～ダンスと音楽がつなぐ道～『山脈狂詩曲（やまなみラプソディ）』
［会場・日程］
•中川文化センター：6月28日
•松川村多目的交流センター すずの音ホール：7月5日
•長野県伊那文化会館：7月12日
•小布施町北斎ホール：8月28日
•ホクト文化ホール：9月6日
［振付・演出］横山彰乃
［出演］横山彰乃、海沼優衣、外山賀野、ゆう、泊舞々
［サポートアーティスト］宮坂遼太郎

●公共ホール創造ネットワークモデル事業に関する問い合わせ
芸術環境部　渡邊・藤原（香）
Tel. 03-5573-4067

地域創造では、都道府県および市町村等の公共ホールが協働・連携して、クラシック音楽、現代ダンスまたは演劇の複数ジャンルを取り入れたプログラムを制作する2カ年事業「公共ホール創造ネットワークモデル事業」（以下、創造ネット）に取り組んでいます。これまで神奈川県、和歌山県、福島県で実施し、令和7・8年度はモデル事業の4地域目として、3館の県立ホールを運営する一般財団法人長野県文化振興事業団（以下、事業団）が中心となり、小布施町、松川村、中川村の3町村と連携して事業を実施しました。

これまでは地域創造の登録アーティスト経験者が参加していましたが、長野県では大町市出身の横山彰乃さん（ダンサー・振付家）、長野市在住の外山賀野さん（チェロ）と海沼優衣さん（パーカッション・マリンバ）という地元ゆかりのアーティスト3名が参加しました。1年目のアウトリーチプログラムづくり、3町村の小中学校でのアウトリーチを経て、2年目となる今年度はクラシック音楽×現代ダンスの作品創作と公演が行われました。今回のレターでは2年目の取り組みについて紹介します。

●クラシック音楽×現代ダンス

創造ネットでは参加地域との協議によって、実施体制、アーティスト、プログラム内容等を詰めるのが特徴になっています。今回は、事業団内に受け皿となる企画係を立ち上げ、ホクト文化ホールの町田弘行さんがプロデューサーとして全体を統括しました（右頁コメント参照）。また、県立ホール2館、市町村ホール3館で上演が行われ、2館が舞台上舞台、2館が平土間形式、1館がロビーを会場とし、舞台監督と照明プランナー以外は県立ホール各館の技術スタッフが主体的に関わるなど、貴重な研修機会となりました。

6月からの本公演に向けて、約半年前から打ち合わせをスタートし、顔を合わせた実際の稽古は4月を中心に通算1カ月ほど行われました（右頁事業スケジュール参照）。創作にあたっては、最初に関係者全員がリアルに顔を揃える壁打ちミーティング（月1回）を3回実施し、構成・演出を担当した横山さんが関係者との丁寧な対話を行ったのが特徴で、その結果、長野県の共通イメージである山々が作品のモチーフとなりました（右頁コメント参照）。

『山脈狂詩曲(やまなみラプソディ)』と題された本作品では、舞台中央に長野の山々を思わせるセットを配置。木曽節に乗せて登山服姿のダンサー、演奏家が三々五々登場し、横山さんが観客を誘ってリラックス体操をするなど和やかにスタート。山の霊気を感じさせるビブラフォンの演奏が印象的な1場は、人間と山(自然)との交感をダンス、パーカッション、照明などで表現。2場では客席を巻き込んだ長野県についての寸劇と、信州の芸能をモチーフにしたダンス、3場ではチェロとパーカッションの現代音楽に山の化身のようなダンサーが挑むソロが披露されるなど、見どころ満載の70分となりました。

途中、出演者の体調不良などもありましたが、ワンチームで乗り切り、2年間にわたるプロジェクトを締め括りました。

●事業全体を振り返って〜
町田弘行(ホクト文化ホール)

長野県文化振興事業団は3館の県立ホール(ホクト文化ホール、伊那文化会館、キッセイ文化ホール)を指定管理者として運営していますが、事業予算が少なく、創作の機会がほとんどありません。施設間の人事異動はありますが、地理的に移動に時間を要するため連携もほとんど行われていません。創造ネットはクリエーションと連携を経験するいい機会だと思いました。

組織改編によって各館の職員が参加する企画係が新設され、私もメンバーでした。そのメンバー3名が今回の事業の中心となり、私がプロデューサー、伊那文化会館の山田敦子さんが制作統括、キッセイ文化ホールの柄澤志保さんが広報を主に担いました。各館ごとに会計処理をするなど、事務面でも3館連携は思ったより大変でした。

市町村ホールについては公募ではなく、地域に詳しい県立3館がそれぞれ1館ずつ推薦しました。小布施町では町役場の職員からこの事業に参加したい人を募集する立候補制で担当者を決めたそうで、企画財政課の若い職員が参加しました。

アーティストは長野県出身で、東京などで活動し、事業団とも接点のあった横山さんを最初に決めました。お互いに刺激しあえるよう、同世代のアーティストをキャスティングしました。現場の技術スタッフも僕らと同世代、30〜40歳代で対応しました。また、子育て中のダンサーが出演することになり、そういう人たちにも活躍してもらえるよう稽古中に託児の保育士さんを手配し、稽古時間を19時までにするなど支援体制を整えました。こういう取り組みが当たり前に広がっていけばいいと思いました。

今回初めて異なるジャンルでの創作に挑戦し、お互いに突き詰めていけばいろんなことができると実感しました。こういう取り組みを経験した人が増えることで、既存のジャンルに縛られず、例えば子どもたちにホールでは楽しいことが起こってるんだよと表現できる人が増えるのではないかと思いました。

●作品創作を振り返って〜
横山彰乃(ダンサー・振付家)

日本女子体育大学を卒業してから首都圏で活動していました。ダンスでまちづくりをしたいというのとは違う気持ちですが、いつか長野に根差した活動をしたいと思っていました。劇場は特別な空間すぎて、ダンスや舞台芸術が人の生活と切り離されてしまう。一般の人と触れ合いながら活動できる環境が欲しいと思っていました。それと自分の奥底にある長野の山々を実感しながら創作したいという気持ちもありました。

当初は、創造ネットがどういうものか腑に落ちていませんでした。クラシック音楽の演奏家と一緒に取り組むにあたって楽器を2種類指定できるというので、チェロとパーカッションを選びました。演奏家が二人とも30歳代で、まずはやってみようとトライしてくれたので創作を前に進めることができたと思っています。また、1年目のアウトリーチが楽器を動かしながら演奏するなど、演奏家とダンサーがお互いを知り合う助走期間になっていて、それがとても大切だったと思っています。

創作にあたっては、全員が集まってひたすら話をする壁打ちミーティングをやりました。そのなかで皆さんの長野への思いがすごく強いことがわかりました。長野県には3つの地域があり、景色も風土も文化も違うと。それをすべて作品に取り入れることはできませんし、地域の人に向けてだけ創作するのも違う。そうしてたどり着いたモチーフが「長野の山々」、芸能や文化が往来したであろう「山の道」でした。それと、ダンスとクラシック音楽のどちらか一方がバックダンサー、バックミュージックになるような創作にはしたくない、ライブ演奏とダンスが組み合わさった表現にしたいと思っていました。

音楽でいろいろな時代を巡るような構成にしたかったので、まず私が50曲ぐらい選曲して、外山さん、海沼さんと相談しながら決めていきました。2カ月ぐらいこういうデスクワークを行い、イメージを固めてから稽古に入りました。

●令和7・8年度「公共ホール創造ネットワークモデル事業」長野県の主な取り組み(事業スケジュール)

◎令和7年度(1年目)
- 6月〜11月:アーティスト顔合わせ、アウトリーチプログラムづくり、現地視察、キックオフイベント(長野県伊那文化会館)など
- 12月:アウトリーチの実施(小学校・中学校対象)
- 1〜3月:全体会議(作品コンセプトの共有、公演タイトル決め、会場ごとのセット、テクニカルや大道具についてなどの打ち合わせ、宣材写真撮影、地域交流プログラムの内容打ち合わせ/ホクト文化ホール)
- 3月24日〜27日:公演稽古(ホクト文化ホール)

◎令和8年度(2年目)
- 4月1日〜4日、7日〜12日、15日〜17日、21日〜24日、5月8日〜10日:公演稽古(ホクト文化ホール)
- 4月29日:地域交流プログラム(音楽ワークショップ:海沼優衣/天のなかがわ河川公園)
- 5月16日:地域交流プログラム(ダンスワークショップ:横山彰乃/松川村多目的交流センター すずの音ホール)
- 5月17日:地域交流プログラム(舞台ワークショップ:テクニカルスタッフ/伊那市伊那文化会館)
- 5月30日:地域交流プログラム(音楽ワークショップ:外山賀野/おぶせミュージアム・中島千波館)
- 6月2日 〜5日、18日、19日、23日:公演稽古(ホクト文化ホール)
- 6月25日〜28日:中川村公演仕込み、リハ、ゲネ、本番(中川文化センター)
- 7月2日〜5日:松川村公演仕込み、リハ、ゲネ、本番(松川村多目的交流センター すずの音ホール)
- 7月9日〜12日:伊那市公演仕込み、リハ、ゲネ、本番(長野県伊那文化会館)
- 8月25日〜28日:小布施町公演仕込み、リハ、ゲネ、本番(小布施町北斎ホール)
- 9月2日〜6日:長野市公演仕込み、リハ、ゲネ、本番(ホクト文化ホール)＊鑑賞サポートあり

財団からのお知らせ

●ステージラボ四日市セッション参加申し込み方法
当財団ホームページより募集要領をご確認の上、必要事項を揃えて専用フォームよりお申し込みください。
https://www.jafra.or.jp/project/training/01.html#boshu

●ステージラボに関する問い合わせ
芸術環境部　益子・税光・児島
Tel. 03-5573-4066

◎四日市市文化会館
四日市市文化会館は、1982年に開館した三重県北部を代表する文化施設です。最大1,786席の第1ホールと593席の第2ホールを中心に、展示室やリハーサル室、練習室を備え、大型公演から市民の発表会まで幅広く活用されています。
また、2016年には、学校統合で閉校した旧三浜小学校を生かした三浜文化会館（カルチュール三浜）が誕生しました。旧体育館を転用した多目的ホールやリハーサル室・練習室・会議室・陶芸室・創作スペースなどをもち、文化会館を補完する練習・創作・交流の場として親しまれています。
両館は公益財団法人四日市市文化まちづくり財団が一体的に運営し、鑑賞事業に加え、市民参加型のワークショップや学校へのアウトリーチ、映画上映会、ロビーコンサートなど多彩な事業を展開しています。これからも「文化と人、人と人をつなぐ」拠点として、地域に根差した文化の担い手を育てるとともに、文化団体や各地の文化施設との連携を深め、文化芸術の新たな可能性に挑戦してまいります。
指定管理者：四日市市文化まちづくり財団

●ステージラボ四日市セッション参加者募集

ステージラボは、公立文化施設等の職員を対象に、ワークショップ等の体験型プログラムやグループディスカッションなど、講師と参加者の双方向コミュニケーションを重視したカリキュラムに取り組む、少人数ゼミ形式の実践的な研修事業です。

令和8年度の後期セッションは、四日市市文化会館（三重県四日市市）にて3コースを開催します。各コースの詳細は募集要領をご覧ください。皆様のご参加をお待ちしています。

募集締切：2026年11月25日（水）必着

◎ステージラボ四日市セッション概要
［日程］2027年2月2日（火）～5日（金）
※公立ホール・劇場マネージャーコースのみ2月2日（火）～4日（木）
［会場］四日市市文化会館
（三重県四日市市安島2-5-3）
［開講コース］ホール入門コース、自主事業コース、公立ホール・劇場マネージャーコース
［定員］各コース20名程度
［主催］（一財）地域創造、（公財）四日市市文化まちづくり財団
［共催］四日市市
［後援］三重県

◎ホール入門コース
【コーディネーター】岩崎正裕（劇作家・演出家／劇団太陽族代表）
【対象となる職員の目安】公立文化施設で企画・運営に携わる職員および地域の文化・芸術に携わる地方公共団体職員で、公立ホール・劇場において業務経験年数1年半未満の方。
【コース概要】演劇や音楽のワークショップ体験を通じて、鑑賞型に留まらない公共ホールの事業のあり方を考えます。まずは体験、自己の身体感覚の中で何が揺らぎ、何が呼び覚まされるのか。ディスカッションによる参加者同士の交流の中から、共通の悩みが浮かび上がるかもしれません。そのことを土台に、それぞれの地域の特色ある文化事業を展望しましょう。

◎自主事業コース
【コーディネーター】松本志帆子（藁工ミュージアム 学芸スタッフ／NPO蛸蔵 理事）
【対象となる職員の目安】公立文化施設で企画・運営に携わる職員および地域の文化・芸術に携わる地方公共団体職員で、自主企画による事業を実施している公立ホール・劇場において業務経験年数が2～3年程度の方。
【コース概要】文化芸術を創造し、楽しむことは、居住地域や国籍、性別、年齢、障がいの有無、社会的立場等にかかわらず、誰もが持つ生まれながらの権利です。さまざまな法整備や社会の変化を背景に、劇場や音楽堂には、社会参加の機会をひらく社会包摂の拠点としての役割が求められています。本コースでは、その背景を学ぶとともに、種々の事例や当事者との対話を通じて、共生社会の実現に向けた取り組みを各地域で始めるための道筋を一緒に探りましょう。

◎公立ホール・劇場マネージャーコース
【コーディネーター】松浦茂之（公益財団法人三重県文化振興事業団参事、三重県文化会館副館長兼事業課長）
【対象となる職員の目安】公立文化施設で企画・運営に携わる職員および地域の文化・芸術に携わる地方公共団体職員で、公立ホール・劇場において管理職程度の職責をもつ方。
【コース概要】地方の人口減と超高齢社会が進む中、これからの劇場はどうあるべきか？ 劇場の利用率や主催事業の入場率など、かつての定量的な成果指標がもはや時代遅れとなった感があります。「場」としての劇場の魅力をどう高めていくかを考えながら、自治体の地域全体を「面」として捉え、最適な文化振興を図るにはどのような事業展開が考えられるのか、みんなで楽しく一緒に考えます。

●令和9年度ステージラボ開催地のお知らせ
令和9年度は、前期（2027年6月末）に秋田市文化創造館（秋田県秋田市）で2コースを実施、後期（2028年2月下旬）に吹田市文化会館メイシアター（大阪府吹田市）で3コースを実施予定です。詳細は地域創造レターおよびホームページでお伝えします。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

●2027・2028年度「公共ホール音楽活性化事業(導入プログラム)」登録アーティスト追加のお知らせ

2027・2028(令和9・10)年度の公共ホール音楽活性化事業(導入プログラム)にて全国に派遣される登録アーティストとして、2026年8月号で掲載した4名のほか、チェロの山本大さんが加わることとなりました。

◎山本 大(やまもと だい)[チェロ]

東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校、同大学を卒業。同大学院を首席で修了(大学院アカンサス音楽賞を受賞)。第16回ビバホールチェロコンクール第1位。第22回東京音楽コンクール弦楽部門 第3位。これまでに藝大フィルハーモニー管弦楽団、東京フィルハーモニー管弦楽団と共演。令和元年度音楽大学卒業生演奏会(皇居東御苑内桃華楽堂)に出演。S.イッサーリス、A.メネセス、W.ベッチャー、L.クヴァンツ、各氏のマスタークラスを受講。現在、東京都交響楽団チェロ奏者、高嶋ちさ子 With Super Cellistメンバー、東京藝術大学音楽学部非常勤講師。



●2027・2028年度「公共ホール音楽活性化事業」登録アーティストの集合研修を開催

地域創造では1998(平成10)年度からオーディションで選考した登録アーティスト(2カ年)をコーディネーターと共に地域に派遣する「公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)」を実施しています。決定したばかりの2027・2028(令和9・10)年度登録アーティスト5名に向けて、おんかつに関わっていくことの心構えや、プログラムづくりの考え方等を学ぶ集合研修を9月8日、9日に実施しました。

集合研修では、おんかつコーディネーターでリージョナルシアター事業アドバイザー兼派遣アーティストである演出家の多田淳之介さんによるワークショップや、2025・26(令和7・8)年度おんかつ登録アーティストの三原未紗子さん(ピアノ)、山崎由貴さん(ユーフォニアム)から、先輩としての実体験を学ぶゼミなどが行われました。

今後、担当コーディネーターとの打ち合わせを経て、実際の小学校でアウトリーチを行う実地研修が予定されています。来年4月の全体研修会では登録アーティスト5名による公開でのプレゼンテーションも行われますので、ぜひご参加ください。



三原未紗子さん、山崎由貴さんとのグループディスカッション

●令和8年度「公共ホール音楽活性化支援・市町村連携事業」終了報告

この事業では、「おんかつ・邦楽事業」の実施団体を対象に、他の市町村の公共ホールと連携した事業の実施により公共ホール間の連携を考え学ぶ機会の確保や、公共ホール職員間の企画・制作能力の向上と創造性豊かな地域づくりを目指しています。

令和8年度は昨年に引き続き岩手県釜石市、北上市、一関市、奥州市(前沢)、西和賀町に、奥州市(胆沢)が加わり、計6団体で行われました。7月9日から各所の市町でアウトリーチを行い、9月19日に報告会を終えました。

今年度幹事団体の釜石市のサロンコンサートでは、「祭り」をテーマにさまざまな編成で時代を超えた音楽が演奏され観客にも熱気が伝わり、キッズイベントでは多くの親子連れが訪れ大盛況となりました。今回初参加となる奥州市胆沢もおんかつ経験豊富な館からのサポートを受けるなど、連携体制が各所で深まる事業実施となりました。



釜石市キッズプログラムの様子
野尻小矢佳さん(パーカッション)・福島青衣子さん(ハープ)

●2027・2028年度公共ホール音楽活性化事業(導入プログラム)登録アーティスト
•和久井映見(わくい えいみ)[ヴァイオリン]
•山本大(やまもと だい)[チェロ]
•榎かぐや(えのき かぐや)[オーボエ]
•竹下裕美(たけした ひろみ)[ソプラノ]
•島田菜摘(しまだ なつみ)[マリンバ・打楽器]

●公共ホール音楽活性化事業に関する問い合わせ
芸術環境部　金山
Tel. 03-5573-4168
onkatsu@jafra.or.jp

●公共ホール音楽活性化支援・市町村連携事業に関する問い合わせ
芸術環境部　山下
Tel. 03-5573-4143

財団からのお知らせ

●令和8年度「公共ホール音楽・現代ダンス活性化障がい者関連事業」がスタート

この事業は、これまでにおんかつ、ダン活、邦楽事業を実施してきた団体が、そのノウハウを活かし、特別支援学校や障害者施設等を対象にアウトリーチを実施するもので、障がい者等を対象とした事業を担う職員の企画・制作力の向上を目指しています。今年度は5団体が参加。地域で豊富な経験を積んだ登録アーティスト（おんかつ支援・ダン活支援）と、ホール担当者が対話を重ねながら、それぞれの地域や対象者に合わせた取り組みを進めています。

上富田文化会館（和歌山県上富田町）では、大森智子さん（ソプラノ）が、南紀はまゆう支援学校、福祉事業団関係者を対象にアウトリーチを行いました。南紀はまゆう支援学校では、肢体不自由教育部・高等部1年・小学部5・6年生を対象に実施しました。『人形オランピアの歌』では、教頭先生が博士役を熱演。また、大森さんがリコーダー、伴奏共演者の田村緑さんが鍵盤ハーモニカで『茶色の小瓶』を演奏しながら、子どもたちの近くへお出掛けしたり、子どもたちがスズや木魚、おりんなどさまざまな楽器を使って『プリンク・プレンク・プランク』を一緒に演奏しました。一人ひとりの特性や興味に配慮し、大森さんは、先生方と現地で対話を重ねながら、みんなが楽しめるようプログラムを練り上げていきました。

2回目の派遣を見据えた福祉事業団関係者向けの実施では、多様な年齢層やニーズを踏まえ、『青い目の人形』や『ゴンドラの唄』などの日本歌曲も演奏。アウトリーチの雰囲気を実際に体験してもらい、本事業への理解を深める機会となりました。参加者からは、「生の演奏を聴く機会の大切さを実感した」といった声が寄せられました。

荘銀タクト鶴岡（山形県鶴岡市）では、昨年度に続き、セレノグラフィカによる鶴岡DARCへのアウトリーチを実施しました。前回は緊張の面持ちで荘銀タクト鶴岡へやって来た参加者の皆さんも、今回はにこやかに手を振りながら来場。小ホールにて、再会や新たな出会いを喜びながらゆっくりと身体をほぐした後、音楽に合わせて会場内を歩きながらみんなとハイタッチ。その後ものびのびと身体を動かし、ワークの後半は劇場内をプチ探検しながら大ホールへ。舞台上に横一本に引かれた照明の中へマイケル・ジャクソンの曲に合わせて袖から颯爽と登場し、「ひとりずつ振り返ってポーズを決める！」という、劇場だからこそできる体験も行いました。参加者からは、「身体がぽかぽかとして気持ち良かった。またやりたい！」との声が上がり、ホール担当者は、「この事業で育まれた関係性を、来年度以降も継続していきたい」と語りました。

その他の地域でも、地域や対象者に合わせた多様なプログラムを展開する予定です。それぞれの地域で生まれる新たな取り組みに、ぜひご注目ください。





アウトリーチの様子　左：南紀はまゆう支援学校（大森智子）／右：鶴岡DARC（セレノグラフィカ）　撮影：Joe Igarashi

●令和8年度「公共ホール音楽・現代ダンス活性化障がい者関連事業」
◎実施ホール／派遣アーティスト
•伊賀市文化会館／新野将之（パーカッション）
•上富田文化会館／大森智子（ソプラノ）
•倉敷市玉島市民交流センター／野尻小矢佳（パーカッション）
•名護市民会館／棚原健太（歌三線）
•荘銀タクト鶴岡／セレノグラフィカ（隅地茉歩＋阿比留修一）
◎問い合わせ
芸術環境部　垂水・波多野
Tel. 03-5573-4076

●「特別寄稿 ビューポイント view point」No.25 掲載について

地域創造ホームページ限定で、有識者やキーパーソンから文化芸術および公立文化施設等におけるチャレンジングな取り組みを寄稿していただくコーナー「特別寄稿 ビューポイント view point」。

25回目となる今回は、まつもと市民芸術館 芸術監督団長／芸術監督（演劇部門）、木ノ下歌舞伎主宰の木ノ下裕一氏にご寄稿いただきました
https://www.jafra.or.jp/library/other/6902.html

◎問い合わせ
芸術環境部　岩下
Tel. 03-5573-4093

地域通信

●地域通信欄掲載情報について
最新の情報は主催者の発表情報をご確認ください。

●データの見方
情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示してあるのは開催地です。マークが付いている事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

●地域ブロック
[北海道・東北]北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
[関東]茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
[北陸・中部]新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
[近畿]三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
[中国・四国]鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知
[九州・沖縄]福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

●情報提供先
ファックス、電話、e-mailでお願いします。
Fax. 03-5573-4060　Tel. 03-5573-4093
letter@jafra.or.jp
地域創造情報担当　岩下・益子

●2027年1月号情報締切
11月17日(火)

●2027年1月号掲載対象情報
2027年1月～4月に開催もしくは募集されるもの

北海道・東北

●札幌市
サッポロ・シティ・ジャズ実行委員会
〒005-0864　札幌市南区芸術の森2-75
Tel. 011-592-4125　前川
https://sapporocityjazz.jp/

サッポロ・シティ・ジャズ 2026 シアタージャズライブ

今年で20回目のジャズフェスティバル。毎年7月から12月にかけて行われ、今年の冬のメインプログラムとして、hitaruの舞台上を特設会場に「シアタージャズライブ」を開催。国内外のトップアーティストや札幌出身の若手ミュージシャンの8公演を飲食とともに楽しめる。また、ジャズ初心者や身体の不自由な方にもやさしい「ユニバーサルジャズライブ」や初のダンスパーティーも実施。多彩なプログラムでジャズの魅力を発信する。
[日程]11月27日～12月2日
[会場]札幌文化芸術劇場hitaru、札幌市民交流プラザ

●青森県八戸市
八戸ポータルミュージアム はっち
〒031-0032　八戸市三日町11-1
Tel. 0178-22-8228　粒来
https://hacchi.jp/

演劇公演『ケモノヒト』

はっちのパフォーミングアーツ事業では、今年度から2年間、コミッションアーティストとして劇団「MICHInoX(ミチノークス)」を招聘。ワークショップなど多彩な企画を展開している。八戸初演となる舞台公演では、ヒトとケモノの命が交錯する2万年前の氷河期の森を生き抜く少年の運命と冒険を描く。ライブならではの臨場感と舞台芸術の魅力を、多くの市民に届ける。
[日程]12月4日～6日
[会場]八戸ポータルミュージアムはっち

●岩手県花巻市
花巻市
〒025-0097　花巻市若葉町3-16-22
Tel. 0198-24-6511　滝浦
https://www.hanamaki-bunka.jp/

花巻リズムヤンガー 80周年記念コンサート

日本最古のアマチュアビッグバンド、花巻リズムヤンガーの結成80周年記念コンサート。「音楽で、ジャズで、市民に笑顔を」をモットーに活動しており、今回はゲストに世界屈指のトロンボーン奏者である中川英二郎を迎える。開館から50年を迎えた花巻市民文化会館は10月末に改修休館を終え、11月1日から3日間、市民芸術祭も開催。
[日程]11月7日
[会場]花巻市文化会館

●秋田県横手市
秋田県立近代美術館
〒013-0064　横手市赤坂字富ヶ沢62-46
Tel. 0182-33-8855　北島
https://akita-kinbi.jp/

2026コレクション展 第2期「みんなのMuseumプロジェクト企画『みる』をあじわう」

誰もがアートを楽しむ環境づくりを目指す「みんなのMuseumプロジェクト」。4年目の取り組みとなる本展では、触覚的アプローチや県立博物館資料との併置、関連イベントとして認知症や障がいのある方も交えた鑑賞会も実施。アクセシビリティについて、作品をより豊かに味わう「新たな鑑賞の手がかり」と位置づけ、コレクションの新たな魅力をお届けする。
[日程]8月14日～11月1日
[会場]秋田県立近代美術館


認知症の方との対話による鑑賞会

●福島県福島市
ふくしん夢の音楽堂(福島市音楽堂)
〒960-8117　福島市入江町1-1
Tel. 024-531-6221　半澤
https://www.f-shinkoukousha.or.jp/ongakudou/

ふくしまチェンバー・オーケストラ 11月公演

「古関裕而のまち ふくしまチェンバー・オーケストラ」の創立5周年記念コンサート。メンバーは福島にゆかりのある音楽家で構成されている。芸術監督の三浦尚之は福島市出身で、同氏が理事長を務めるミュージック・フロム・ジャパンのニューヨークでの音楽祭にも出演した雅楽アンサンブル「時の聲」を迎え、伝統楽器とストリングスが共演する。
[日程]11月15日
[会場]ふくしん夢の音楽堂(福島市音楽堂)

関東

●さいたま市
埼玉県芸術文化振興財団
〒338-8506　さいたま市中央区上峰3-15-1
Tel. 048-858-5500　松野
https://www.saf.or.jp/arthall/

間違いの喜劇

吉田鋼太郎の演出・上演台本による『間違いの喜劇』は、シェイクスピア初期の傑作喜劇。生き別れた双子の兄弟と召使いが巻き起こす人違いと思い違いの連鎖が、町を大混乱へと導く。埼玉県内の高校生を対象とした無料鑑賞事業と一般向け公演を兼ねた特別企画として上演され、シェイクスピアの魅力を観劇が初めての方から経験豊富な方まで幅広い世代に届ける。

［日程］11月22日～12月2日
［会場］彩の国さいたま芸術劇場

●千葉県船橋市
船橋市民文化創造館（きららホール）
〒273-0005　船橋市本町1-3-1 フェイスビル6F
Tel. 047-423-7261　田中
https://www.city.funabashi.lg.jp/shisetsu/bunka/0001/0002/0001/p011078.html

総合舞台芸術創造プロジェクト2026ミュージカル劇『月、ロープ、インク、塩。ハンスと旅の支度』～アンデルセンの言葉と作品たち～

童話作家アンデルセン生誕の地、デンマークのオーデンセ市と姉妹都市である船橋市で行われる、アンデルセンの言葉と作品を題材に創作される舞台作品。公募で集まったキャスト・スタッフが参加し、童話の世界をミュージカルとして描き出す。地域の創造力と協働によって生み出される、船橋発の舞台芸術の魅力を味わえる。
［日程］11月7日、8日
［会場］船橋市民文化創造館（きららホール）

●東京都調布市
調布市文化・コミュニティ振興財団
〒182-0002　調布市仙川町1-21-5
Tel. 03-3300-0611　萩原
https://www.chofu-culture-community.org/

Kawai Project Vol.10『ファヴァシャムのアーデン殺人事件』

日本を代表するシェイクスピア研究者・河合祥一郎が自ら新訳・作・演出を担当し、原文の真の面白さを伝える公演。今回は、修業時代の若きシェイクスピアが先輩劇作家たちと共に書いたとされ、2016年に正典入りを果たした悲劇『ファヴァシャムのアーデン』を日本初上演する。16世紀の英国で実際に起きた事件を基に書かれた、言わば当時の“実録もの”と呼べる作品で、シェイクスピア愛好家はもちろん、敷居が高いと感じている人にも楽しめる内容になっている。
［日程］11月21日～29日
［会場］調布市せんがわ劇場

●横浜市
かながわ伝統芸能祭実行委員会（事務局：神奈川県文化課）
〒220-0044　横浜市西区紅葉ケ丘9-1（神奈川県立青少年センター内）
Tel. 045-263-4475　藤岡
https://www.pref.kanagawa.jp/docs/ch3/index.html

令和8年度「かながわ伝統文化こども歳時記」

子どもから大人まで、公演だけでなく遊びや体験を通して「伝統芸能」や「伝統文化」を好きになってもらうこと、より身近に感じてもらうことを目的として、五感を使ったさまざまなプログラムを展開する。フィナーレでは紅葉坂ホールにて参加型の盆踊りが行われる。12月には講談と日本舞踊ワークショップも開催予定。
［日程］11月8日
［会場］神奈川県立青少年センター


昨年の様子（フィナーレの盆踊り）

●神奈川県平塚市
平塚市美術館
〒254-0073　平塚市西八幡1-3-3
Tel. 0463-35-2111　勝山
https://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/art-muse/index.html

平塚・カウナス姉妹都市提携3周年記念展「シュヴェグジュダと湘南の画家たち」

平塚市とリトアニア共和国カウナス市の姉妹都市提携3周年を記念し、同国を代表する現代作家アルギマンタス・シュヴェグジュダと湘南ゆかりの画家たちの作品を展示。シュヴェグジュダの日本初公開作品34点の紹介とともに、速水御舟や安田靫彦、岸田劉生、河野通勢らの作品34点も比較展示され、リトアニアと日本の文化への理解を深める機会となる。
［日程］9月26日～11月23日
［会場］平塚市美術館

北陸・中部

●新潟県長岡市
長岡市芸術文化振興財団
〒940-2108　長岡市千秋3-1356-6
Tel. 0258-29-7715　殖栗
https://www.nagaoka-caf.or.jp/lyric/

美しい歌声と弦楽の調べが彩る歌の花束「オペラ・ガラコンサート」

リリックホール開館30周年を記念し、開館記念日に県内ゆかりの音楽家が集う特別公演。武満徹や滝廉太郎の歌曲、シューベルトやトスティの名作、モーツァルトやプッチーニらのオペラ名曲など17曲を披露する。第一部は日本歌曲や珠玉の声楽作品、第二部は親しみ深いオペラの名場面を中心に構成され、世代を超えて愛される名曲の魅力を味わうことができる。
［日程］11月1日
［会場］長岡リリックホール

●石川県金沢市
金沢湯涌夢二館
〒920-1123　金沢市湯涌町イ144-1
Tel. 076-235-1112　髙橋
https://yuwaku-yumejikan.com/

特別展「アウト・オブ・民藝 ―夢二、湯けむり、ユートピア編―」

竹久夢二が湯涌温泉を訪れた際に描いたスケッチを起点に、同時代に起きた民藝運動などを通して、さまざまな人やもののつながりをたどる展覧会。デザイナーの軸原ヨウスケと美術家の中村裕太が民藝運動の周辺を巡るリサーチを行う「アウト・オブ・民藝」から、夢二の旅を紐解く。同世代の人物たちの旅と結びつけることで、新たな視点から夢二の旅を描き直し、思い描いた理想郷を探る。
［日程］7月8日～12月13日
［会場］金沢湯涌夢二館

●長野県松本市
松本市芸術文化振興財団
〒390-0851　松本市島内4351
Tel. 0263-47-2004　小林
https://www.harmonyhall.jp/

国宝松本城古城太鼓特別公演「鼓城の響き2026」

松本城太鼓門復元を機に設立された和太鼓演奏団体「国宝松本城古城太鼓」による特別演奏。東京2020オリンピックやサッカーワールドカップ・フランス大会で演奏経験をもつ和太鼓奏者の佐藤健作と、松本市を拠点に活動する和太鼓グループ「和太鼓鳴桜」も出演。国宝松本城古城太鼓のために三善晃が作曲した組曲『四季』をはじめとした、太鼓演奏の数々を披露する。
［日程］11月28日
［会場］松本市音楽文化ホール

●浜松市
浜松市秋野不矩美術館
〒431-3314　浜松市天竜区二俣町二俣130
Tel. 053-922-0315　新海
https://www.akinofuku-museum.jp

▼— 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

特別展「猫愛に包まれる―秋野不矩から現代作家による猫たち―」

秋野不矩(1908～2001)が日常の身近な存在として描いた、猫を主題とした作品や素描、文章などを起点に、近現代日本美術における猫表現の多様性と魅力に迫る展覧会。本展では、秋野と同世代以降の作家が描いた猫作品を3つのコレクションから紹介。ジャンルや作風の異なる総勢37名の作家による猫たちを通して、人と猫との豊かな関係を見つめる。

[日程]10月10日～11月23日
[会場]浜松市秋野不矩美術館



秋野不矩《猫》(制作年不詳／浜松市秋野不矩美術館蔵)

●名古屋市

やっとかめ文化祭実行委員会事務局
〒460-0011　名古屋市中区大須3-42-30　ALA大須ビル201(NPO法人大ナゴヤ・ユニバーシティー・ネットワーク内)
Tel. 052-262-2580　大野
https://yattokame.jp/2026

やっとかめ文化祭DOORS

芸どころ名古屋の魅力を体感できるフェスティバルで、2013年にスタート。10周年を経たタイミングで、「文化との新しい出会いにつながる多様な“扉”を」との思いを込めて名称に「DOORS」を追加しリニューアル。新作邦楽公演やジャズライブ、名古屋の老舗仏壇店の店主ほか地域の人々と巡る「まち歩き」企画など、約50の多彩なプログラムを展開する。

[日程]10月17日～11月15日
[会場]名古屋能楽堂、ナディアパークほか名古屋市内一円

●愛知県東海市

東海市芸術劇場
〒477-0031　東海市大田町下浜田1016(ユウナル東海内)
Tel. 0562-38-7030　黒田
https://www.tokai-arts.jp

音楽祭TOKAI フレンズ・オーケストラ

劇場初の音楽祭の1公演として行われるオーケストラ公演。指揮者に、2015年のオープニング公演に登場したクリスティアン・アルミンクを迎え、館長兼芸術総監督の安江正也が日本全国の音楽家で編成する「音楽祭TOKAIフレンズ・オーケストラ」による上質な演奏を届ける。開場中は東海市子どものオーケストラとアルミンクによるプレ・コンサートも行われる。

[日程]11月23日
[会場]東海市芸術劇場

近畿

●滋賀県甲賀市

滋賀県立陶芸の森
〒529-1804　甲賀市信楽町勅旨2188-7
Tel. 0748-83-0909　裵洙淨
https://www.sccp.jp

シガラキ・ニューウェーブ: ひろがる創造のいま

2010年以降、信楽・伊賀を拠点に国内外で活動する17名のアーティストを紹介する特別展。陶芸や彫刻、絵画など多彩な表現から、信楽・伊賀の“いま”を感じることができる。また、各出品作家が、地域との関係を綴ったエッセイの展示も見どころ。各作家の土地との出会いや記憶、制作へとつながる経験を通して、作品の背景にある一人ひとりの「信楽・伊賀」をたどる。

[日程]9月12日～12月13日
[会場]滋賀県立陶芸の森

●大阪府茨木市

茨木市文化振興財団
〒567-0888　茨木市駅前4-6-16
Tel. 072-625-3055　坂元
https://www.ibabun.jp

みんなでダンスin Ibarakiプロジェクト「彩々豊豊【さいさいほうほう】～いろとあじはあなた好みに～」

障害のある人もない人も一緒に踊ることをコンセプトに市民参加で創作するダンス公演。6年目となる今回は、本企画の記録誌のディレクションを務めた音楽家・森本アリや茨木在住の音楽家km:を迎え、音楽を交えた作品を33人の市民と創作する。また、例年衣装づくりを担う市民グループ「ibabun手芸部」は染めに挑戦し、作品テーマの「いろとあじ」を表現した衣装を創作するなど、よりパワーアップした作品を届ける。

[日程]11月29日
[会場]茨木市市民総合センター(クリエイトセンター)



昨年の様子(撮影:井上嘉和)

●和歌山県田辺市

田辺市立美術館
〒646-0015　田辺市たきない町24-43
Tel. 0739-24-3770　三谷
https://www.city.tanabe.lg.jp/soshiki/kyoikuiinkai/bijutu/15/index.html

田辺市立美術館開館30周年記念特別展「小林古径―歴史と物語を描く―」

1年以上にわたる改修休館を終えての特別展。格調高い日本画を描き文化勲章を受章した小林古径(1883～1957)による、歴史上の人物や物語を主題とする作品を振り返る。古典を新しい時代の感覚をもって活かした作品のなかで、和歌山の地にまつわる歴史・物語が主題となっている作品も複数展示する。

[日程]10月10日～11月23日
[会場]田辺市立美術館

中国・四国

●島根県松江市

NPO法人あしぶえ
〒690-2105　松江市八雲町平原481-1
Tel. 0852-54-2400　伊藤
https://www.ashibue.jp/

PAPER ペーパー

しいの実シアター専属劇団「あしぶえ」所属の有田美由樹と青年団所属の松田弘子によるセリフなし40分の二人芝居。演出には、同シアターで『GO!』という人気作品を度々演じているポリーナ・ボリソヴァをフランスから招き、40日間のアーティスト・イン・レジデンスを経て全5公演を行う(無料の制作過程公開は要予約)。

[日程]11月21日～23日
[会場]森の劇場　しいの実シアター

●広島県福山市

福山市沼隈サンパルホール
〒720-0311　福山市沼隈町大字草深1890-4
Tel. 084-987-1866　渡辺
https://www.fukuyamabunkahall.jp/

登録アーティストによるプレミアムコンサート

市内外でアウトリーチや出前コンサートを行うなど、幅広く活躍している「ふくやま文化ホール登録アーティスト」が集結した、3歳から大人まで誰もが楽しめるコンサート。第一部は「秋」をテーマに各アーティストがそれぞれ演奏し、第二部では出演者全員で

『動物の謝肉祭』を演奏する。この日のために沼隈地区の学校の児童・生徒が制作した動物のイラストを投影。音楽・映像・お話が織り成すコラボレーションが見どころ。
[日程]11月29日
[会場]福山市沼隈サンパルホール

●香川県宇多津町
宇多津町振興財団
〒769-0206　綾歌郡宇多津町浜六番丁88
Tel. 0877-49-8020　岩根
https://uplaza-utazu.jp/uplaza

能と雅楽

香川県出身の能楽師・伶以野陽子とユープラザうたづが「能を気軽に観ていただきたい」との思いで、2023年より継続している能楽公演。今年は、「伝統芸能の限りなき挑戦」をテーマに、雅楽とのコラボレーションに初挑戦。琵琶の名手でもあった武将・平経政の物語『経政』を上演する。また、舞台上には、作品にちなみ、演出効果として雅楽で使用される古楽器「楽琵琶」を設置する。
[日程]11月29日
[会場]ユープラザうたづ

●高知県高知市ほか
高知県立美術館
〒781-8123　高知市高須353-2
Tel. 088-866-8000　松本・浜口
https://moak.jp/

カンパニーデラシネラ 古典名作劇場第四弾 『シンデレラ』共同製作

マイムの独創的な動きで、独自の演劇作品を生み出してきた小野寺修二のセルフユニット「カンパニーデラシネラ」。セリフのないマイムならではの身体表現は、多くの人を魅了してきた。そのデラシネラと高知県立美術館が育んできた古典名作劇場シリーズの第四弾として、新作『シンデレラ』を上演(主演・浅野和之)。アーティストと全国6つの公共ホールが連携し、シリーズ初の共同製作に取り組む。
[日程・会場]11月20日、21日:高知県立美術館／11月23日:岡山芸術創造劇場ハレノワ／11月28日:久留米シティプラザ／12月5日:島根県立いわみ芸術劇場(グラントワ)／12月13日:いわき芸術文化交流館アリオス／12月19日:りゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館・劇場／12月26日:北とぴあ

九州・沖縄

●福岡県宗像市
宗像ユリックス
〒811-3437　宗像市久原400
Tel. 0940-37-1311　小林
https://yurix.munakata.com/

ドロップ『きたかぜとたいよう』

俳優の渡辺麻依、佐藤円による演劇ユニット「ドロップ」による、0歳から楽しめる音楽とダンスを取り込んだ公演。宗像ユリックスでは今年度、未就園児とその保護者を対象とした事業を重点的に実施。公共ホールが多様な人々との出会いの場になることで、人間関係の醸成とホールの顧客創造を図る。関連企画として市内の複数のコミュニティセンターにてアウトリーチ事業も実施予定。
[日程]11月21日
[会場]宗像ユリックス

●長崎県大村市ほか
大村市文化・スポーツ振興財団
〒856-0836　大村市幸町25-33
Tel. 0957-20-7207　坂口・橘
https://seahat.jp

オーケストラ×吹奏楽の響き!!

オーケストラと吹奏楽それぞれの魅力が響き合うコンサートを、長崎・佐賀県内の3館が連携して開催。オーケストラステージ、オーケストラ×吹奏楽ステージ、そして楽器を持参できる来場者も交えた「みんなで大合奏ステージ」の3部で構成し、長崎OMURA室内合奏団と開催地域ごとの吹奏楽団(吹奏楽部や活動団体、愛好家など)がクラシック楽曲や特別に編曲した吹奏楽の楽曲を披露する。
[日程・会場]11月7日:メモリード・シーハットおおむら／22日:鹿島市民文化ホールSAKURAS／28日:南島原市ありえコレジヨホール

●熊本市
熊本県立美術館
〒860-0008　熊本市中央区二の丸2番
Tel. 096-352-2111　萬納、榎田
https://www.pref.kumamoto.jp/site/museum/

熊本地震から10年 仏像　国宝×肥後仏

開館50周年の節目として熊本の仏像彫刻を網羅的に取り上げるとともに、歴史的にも中世の肥後と深い関係にある京都の国宝仏を特別公開する企画展。平成28年熊本地震から10年を迎え、文化財の被災時における日頃の調査成果の活用などについても紹介し、地域の歴史の奥深さと、文化財を守り継いできた人々の思いにも目を向ける。
[日程]10月9日～11月29日
[会場]熊本県立美術館

●宮崎県宮崎市
メディキット県民文化センター(宮崎県立芸術劇場)
〒880-8557　宮崎市船塚3-210
Tel. 0985-28-3208　黒木・佐伯
http://www.miyazaki-ac.jp/

はじめてのクラシック♪＃21 ～ホルン～

2019年から続く、0歳から楽しめる親子向けコンサートシリーズ。毎回、劇場が行う音楽アウトリーチの登録アーティストが出演し、今回はホルンの宮田美波が登場。演奏やトークにはアウトリーチでの経験を活かした楽しい仕掛けが満載で、チャイコフスキー『花のワルツ』では、自作の紙芝居をスクリーンに投影し、『くるみ割り人形』の世界へ誘う。
[日程]11月4日
[会場]メディキット県民文化センター

●沖縄県那覇市
那覇文化芸術劇場なはーと
〒900-0015　那覇市久茂地3-26-27
Tel. 098-861-7810　入嵩西
https://www.nahart.jp/

なはーとジャズマンス 「沖縄ジャズ×アジア」

毎晩のようにジャズの生演奏を聴くことができる街・那覇で、2022年から続くジャズコンサート。企画制作・監修は那覇出身のドラマー・作曲家である中村亮。今回は、なはーと開館5周年を記念し、「沖縄ジャズとアジア」をテーマに開催。那覇で活躍するアーティストと、韓国と台湾のアーティストが、その日だけのセッションを繰り広げる。関連企画として子ども向けの無料コンサートやトーク・ワークショップも開催。
[日程]11月22日、29日
[会場]那覇文化芸術劇場なはーと

クリスマス・新春企画 情報求む!

12月号(11月25日発行予定)では「クリスマス・新春企画」を中心にご紹介します。下記までどしどし情報をお寄せください。
Tel. 03-5573-4093
Fax. 03-5573-4060
letter@jafra.or.jp
締め切り:11月2日(月)

▼—今月の情報（アーツセンター編）

新たにオープンした公立のアーツセンターを紹介します

アーツセンター情報

●情報提供のお願い

地域創造では、地域の芸術環境づくりを積極的に推進するアーツセンター（ホール、美術館などの施設のほか、ソフトの運営主体も含みます）の情報を収集しています。特に、新規の計画やオープンなどのトピックスについては、この情報欄で掲載していく予定です。このページに掲載を希望する情報がございましたら、下記担当までご連絡ください。

●情報提供先

芸術環境部　岩下
Fax. 03-5573-4060
Tel. 03-5573-4093
letter@jafra.or.jp

●千葉県市原市

やわたパレット（市原市八幡総合市民センター）

〒290-0062 市原市八幡1050-3
Tel. 0436-67-0330
https://www.yawata-palette.jp

◎2026年3月2日オープン



市の都市拠点であるJR八幡宿駅の西口周辺に位置する、老朽化が進行する支所や公民館、青少年会館などの6つの公共施設の機能を集約し、新たに整備した複合施設。事業構想の段階から、地域住民や高校生、子育て世代などと対話を重ねながら整備を進めてきた。

愛称の「やわたパレット」は、色とりどりの人や活動が集まる＝パレット（絵の具板）に例え、文化や運動、読書などの多彩さを表現したものとして、市民投票により決定。「交流と集いの場」「自己実現の場」「地域支援の場」「歴史と知識の場」の連携により、「みんなが来たくなる“わ”（和・輪）が広がる場」として、地域の歴史や文化を活かし、地域のさらなる賑わいと交流を生み出す新たなまちづくりの拠点を目指す。

館内には体育室や多目的運動室、図書コーナーなどのほか、ブックカフェを併設し、施設前には芝生エリアや誰もが楽しめるインクルーシブ遊具を設置。

［オープニング事業］オープニングイベント（ヒップホップダンスの発表など）

［施設概要］多目的室、多目的エントランスラウンジ、和室、オープンスペース、調理室、体育室 ほか

［設置者］市原市

［管理・運営者］（株）やわた未来パートナーズ

［設計者］（株）INA新建築研究所

●大分県別府市

別府市共創交流拠点 こもれびパーク

〒874-0903　別府市大字別府字野口原3013-1
Tel. 0977-75-7666
https://comorebi-park.jp/

◎2026年3月28日オープン



地域が抱える課題解決を目指して誕生した、市立図書館を核とした複合型施設。構想段階から公開ミーティング等で市民の声を集め、多様な立場の人々が連携・共創しやすい環境を整備。学びを深め成長を支える「ラーニングコモンズ」、多様な活動を生み出す「クリエイティブコモンズ」、出会いと交流を促す「アクティブコモンズ」の3エリアで構成され、市民の生活のよりどころを目指す。

会議利用可能な多目的ホールや音楽設備を備えたスタジオ、カフェ併設の交流サロン、地域・郷土資料館や足湯などを備える。図書を介した企画に加え、アートイベントなども展開し、誰もが気軽に集い、学び、交流できる開かれた知と創造の拠点を目指している。

［オープニング事業］ザ・キャビンカンパニー絵本読み聞かせ・サイン会 ほか

［施設概要］別府市立図書館、地域・郷土資料館、多目的ホール（約100㎡）、スタジオ（約45㎡）、交流サロン、屋外広場、足湯

［設置者］別府市

［管理・運営者］こもれびパーク運営共同事業体（市立図書館は別府市）

［設計者］（株）佐藤総合計画

Topics　青森県黒石市に廃校をリノベーションした文化芸術拠点がオープン

旧黒石小学校（1973年竣工・2020年閉校）の校舎を活用し、芸術や文化を通じた学びと、多世代の交流を生み出す拠点として整備された黒石アートBOX（愛称「こへる」）。令和6年4月に基本計画を策定し、設計や運営方針の検討、校舎の改修を経て、令和8年6月にプレオープン。地域に親しまれてきた校舎の記憶を受け継ぎながら、幼児から高齢者まで幅広い世代が共に活動できる、学校でも家庭でもない「第3の学びの場」を目指している。

施設名称の「BOX」は、明治時代に黒石市の奥村新助氏が考案した「りんご箱」に着想を得たもので、公募により決定した愛称の「こへる」は津軽弁で「つくる」を意味し、自分の可能性や限界を「超える」、世代やさまざまな垣根を「越える」という思いも込められている。

館内には、身近な素材を使って自由な創作を楽しめるマテリアルラボ、絵画や造形に取り組めるアトリエ、展示・鑑賞のためのギャラリーやスタジオなどを備え、展覧会や体験教室に加え、学校や地域団体などと連携した多彩な活動を展開している。

アートを入り口に、つくる楽しさや学ぶ喜びを分かち合い、人と人、地域と文化をつなぐ場所として、新たな学びの機会を育んでいく。

●黒石アートBOX こへる
［開館］2026年6月13日
［所在地］〒036-0351　青森県黒石市大字黒石字砂森76
Tel. 0172-26-6505
https://www.city.kuroishi.aomori.jp/shisei/keikaku/kuroishi_childrenmuseum.html



＊地域創造レターは再生紙を使用しています

青森県八戸市

KAGURA DAY's@hacchi

八戸圏域山伏神楽再興委員会「大演舞会」





上：舞台の様子
下：出演団体の皆さん　撮影：岩根愛

●はっち伝統文化プロジェクト KAGURA DAY's@hacchi 八戸圏域山伏神楽再興委員会「大演舞会」
[主催]八戸ポータルミュージアム はっち
[共催]八戸圏域山伏神楽再興委員会
[会期]公演：2026年9月19日～23日／展示：9月11日～23日
[会場]八戸ポータルミュージアム はっち
[出演]市川神楽、鮫神楽連中、白銀四頭権現神楽連中、道佛神楽組

●八戸ポータルミュージアム はっち
八戸市中心街に2011年開館した市の直営施設。「新たな交流と創造の拠点」として、文化や観光、ものづくり、まちづくりなどの分野でまちの魅力づくりに資する事業を展開。市民活動の場としてスペースを貸し出すほか、地域資源や市民活動に着目したプロジェクト、ワークショップ、伝統文化の体験・発信、レジデンス、公演事業、展覧会など多様な活動を展開。

●八戸圏域山伏神楽再興委員会
八戸圏域各地に伝わる山伏神楽の再興と発展を目指し、神楽の伝承者や愛好家、研究者らの有志によって2023年に結成。委員長は鮫神楽連中の畑中大河。神楽の魅力を担い手自身が発信することを掲げ、館鼻岸壁朝市での「朝市神楽」、SNS・動画による情報発信、「八戸圏域山伏神楽再興委員会大演舞会」などを展開。デーリー東北新聞社「頑張るあなたを応援するデリオン賞」受賞。

9月19日から23日まで、八戸ポータルミュージアムはっち（以下、はっち）で4団体の山伏神楽（道佛神楽組、白銀四頭権現神楽、鮫神楽、市川神楽）が集う「大演舞会」公演が行われた。地域の伝統的なものづくりや芸能を2カ年かけて掘り下げる「はっち伝統文化プロジェクト」の第1弾として企画されたもの。2026・27年度は神楽にスポットを当て、「KAGURA DAY's@hacchi」と題して八戸圏域山伏神楽再興委員会と共に大演舞会の実演と展示が行われた。

最終日には4団体の権現様が一堂に会し、解説を交えて「権現舞」を見比べる特別上演に加え、浦島太郎が鯛を釣る様子をユーモラスに表現した狂言舞「浦島」で締め括り。観客への餌（お菓子）撒きや、出演者みんなが手伝って鯛を釣り上げる趣向を楽しんだ。終演後には4団体の権現様が揃って来場者に頭噛みを施すなど、通常の神楽では味わえないプログラムになっていた。

●

八戸圏域の神楽は、伊勢神宮がルーツの「大神楽」と、修験道の山伏がルーツの「山伏神楽」の2系統に分けられる。その内、山伏神楽は27団体で、一度途絶えた後に学校の神楽クラブの記録から復活したり、他地域から教わったりするなど、変化しながら継承されてきた。そうしたなかで2023年に結成されたのが「八戸圏域山伏神楽再興委員会」だ。

中心人物の一人、鮫神楽連中の畑中大河さんは、小学校のクラブ活動をきっかけに神楽を始め、現在28歳。演目の復活やSNSでの発信に取り組み、演劇やコンテンポラリーダンス公演にも参加するなど、多様な表現に挑んできた。後継者不足や、神楽に特化した披露の場がほとんどないことを踏まえ、「神楽のおもしろさを一番理解している自分たち自身が、神楽の魅力を発信していきたい。全団体を束ねようというのではなく、それぞれの団体が大事にしていること尊重している」と話す。

再興委員会の活動にも携わる市の民俗担当の学芸員・小林力さんは、2018年から3年間、若手の神楽士を特集した公演「山伏神楽U-30」を企画。想定以上の観客が集まり、若者たち自身が神楽の魅力を再認識する機会となった。コロナ禍を経て、今回、その若者たちが動き出した格好だ。

NPO法人JCDNが発起人となり、東日本大震災後に郷土芸能に光を当ててきた「三陸国際芸術祭」も新しい風をもたらした。芸能団体が外国の芸能や現代ダンス、写真などの表現者と出会い、地元の芸能団体同士も交流を深めていった。畑中さんにも「神楽のことをもっと話してみたい。何か一緒にやってみたい」という思いが芽生えたとか。再興委員会はこうした経験をもつ神楽団が参加して結成され、朝市での公演（朝市神楽）や自主企画公演などを重ねてきた。

一方、はっちは、開館以来、八戸三社大祭や八戸えんぶりの紹介・体験、アーティストのKOSUGE1-16が参加した山車づくりの魅力発信プロジェクトなど、地域の芸能を事業の柱のひとつにしてきた。今回の企画を担当したはっち学芸員の伊多波麻衣子さんは、「コロナ禍を経て、もう一度、地域の資源や文化活動に目を向け直すべきと思った。単発ではなく複数年のプロジェクトにし、彼らの自主性を応援していきたい」と話す。今後は写真家の岩根愛さんともタッグを組み、神楽をテーマにしたリサーチにも取り組むという。

八戸市には八戸えんぶりをはじめ約90の芸能団体があり、社会教育課が文化財として支援してきたが、芸能団体が新規組織を立ち上げて自ら企画して新たに披露の場をつくろうという動きは、あまり見受けられなかったという。

明治時代には、県に禁止されたえんぶりを復活させ、三社の祭礼を合同で行う八戸三社大祭へと発展させた大沢多門という人物がいた。いわば芸能のプロモーターともいえる存在だ。そうした土地柄だからか、近年は、山車の共同製作や他分野の表現者との交流、女性の活躍など、新たな動きが見られるようになった。伝統は、変わらないことだけで守られるのではない。動き始めた若い芽が、これからどう伸びるのか、楽しみだ。

（八戸市美術館学芸員・大澤苑美）